

令和4年度 第2回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和4年度 第2回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和5年3月7日(火) 18時00分～20時00分
場所	宇治市生涯学習センター 2階 一般研修室
出席者	<p>(委員) 榑原会長 萩副会長 内田委員 岸委員 清原委員 *丹羽委員 松丸委員 井戸本委員 島田委員は欠席</p> <p>(報告者) 宇治中学校ブロックラーニングコーディネーター 西村教諭 東宇治中学校ブロックラーニングコーディネーター 古市教諭 黄檗中学校ブロックラーニングコーディネーター 江上教諭</p> <p>(事務局) 岸本教育長 北尾部長 上道教育副部長 林口教育支援センター長 吉田教育総務課長 金久教育支援課長 吉川学校改革推進課長 岡野学校教育課長 土井学校教育課副課長 山口学校改革推進課副課長 天花寺学校教育課総括指導主事 坂上学校改革推進課総括指導主事 田中学校教育課学校教育指導主事</p>
配付資料	<p>資料1 令和4年度第2回宇治市小中一貫教育推進協議会資料</p> <p>資料2 令和4年度第2回宇治市小中一貫教育推進協議会当日資料</p>

1 開会

- ・岸本教育長 開会挨拶

2 報告及び協議事項

- (1) 報告1 令和4年度宇治市小中一貫教育の取組状況及び学校視察報告について
 資料1の1～16頁に沿って事務局より説明・ラーニングコーディネーターから報告
 報告1についての質問・意見等と応答

(会長)

それでは次第に従いまして、まず、本日の報告1は、「令和4年度宇治市小中一貫教育の取組について」です。

最初に、事務局より報告していただきます。

(事務局)

それでは、事務局より「令和4年度宇治市小中一貫教育の取組状況について」の全体報告をさせていただきます。

【事務局より全体報告】

(会長)

ありがとうございました。

つづいて、ラーニングコーディネーターの先生方から、ブロックの取組状況を説明いただき、あわせて委員からは学校視察についての報告していただきます。

まず、西小倉中学校ブロックのラーニングコーディネーターからお願いします。

(報告者 西小倉中学校ブロックラーニングコーディネーター)

【西小倉中学校ブロックの取組状況報告】

(会長)

ありがとうございました。

では、西小倉中ブロックの取組として、西小倉小学校に視察しました委員からのご意見・ご感想をいただきたいと思っております。

まずは、私が9月8日西小倉小にお伺いしましたので、先に失礼します。

P18をご覧ください。子ども育成推進事業ということで、地域のNPOの「こみねっと」という団体が、小学校3年生が「お茶壺道中」の演劇をつくる取組の指導を行っていました。2グループに分かれての授業でしたが、学校の先生ではなく、地域の方が活躍される場面が、良い意味で、あまり教育っぽくなく、落ち着いて穏やかな感じでうまく進められていると感じました。なお、この劇は10月に校内の授業参観で発表されるということお聞きしました。このようなカリキュラムが保護者に理解されるよう、学校行事の中に組み込まれている様子がよく分かりました。

なお、校長先生から、26年4月に予定されている小中一貫校構想を見据えて合同研修会を進めているということ、学校通学区内の地域資源を活用して生活科とか総合とかの授業に取り入れていること等を教えていただきましたが、同時に活動を継続していくために、様々な指導が必要で、物的、人的な支援がまだまだ必要だといっておられました。

では、他の委員からありますか？

(委員)

私は、こみねっとの活動を小倉小学校で初めて見せてもらいました。各部屋に担当の劇団の方がおられ、3年生の児童に伝えるというものでした。最初は、みんな同じことをしているのかなと思ったのですが、それぞれ部屋毎にお茶の話なんだけれど違う場面をされていました。すらすら言える子もいましたが、恥ずかしがって話す子には「もう少し声を出して！」とハッパをかけ、慣れておられますね、こみねっと。子どもに教えるのも上手ですし、子どもたちも分かりやすく表現の仕方を習い、いつもとは違う授業を、違う大人の方から習っていて、そういうのって大事なことだと思いました。大変良かったかなと思います。

(委員)

西小倉ブロックの取組の報告どうもありがとうございます。その中で、児童・生徒の交流の活動に偏りがあり不十分だったということですが、後々の小中一貫校の導入に当たり、よく言われる中1ギャップの解消に重点を置いていたということは間違いはないんだろうと思いました。ただ、いきなり6年生になって「さあ、中学校だ」よりは、少しずつ段階的にできるといいですね。急なステップができあがっても子どもたちには大変です。時間的な余裕とか先生方の余裕とかがあれば、5年生以下の児童にも機会を導入してもらえれば、よりいいなあと聞かしてもらっていました。

(委員)

報告にもありましたが、木幡中ブロックも、コロナ禍でやりにくいところがあり、年度の後半なんかやりやすくなったというところですか。夏休みの研修会は、何とか一堂に会して実施しましたが、西小倉ブロックでは工夫して進めておられるなと思いました。

小学校6年生は中学校や中学校生活に大変興味をもっています。児童は、定期的に話を聞くこと、体験できる、見学できることがとても大切だと思います。

こみねっとの取組は、西小倉小も小倉小も、全員が参加出来ていてよかったと思います。うまくできなかったら、やり方を変えて、やり直して、こういったことが日常の授業に必要なんだろうなど感じるとともに、中学校に来るとそんな時間もなくなってしまう現状が残念だと感じました。

(会長)

狭い教科学習を考えると、ある意味効率性。総合とか生活はしぼりというか固まりが比較的緩やかで、内容も時間的にも緩やかだと感じます。また、座学と違って、先生方におおらかに見てもらえるというところがあると思います。その点、地域資源の活用とか、こみねっとも含めて、教員以外の色々な方が関わることで満たされる価値があるのかなと思いますね。ありがとうございます。

つづいて、黄檗中学校ブロックのラーニングコーディネーターからお願いします。

(報告者 黄檗中学校ブロックラーニングコーディネーター)

【黄檗中学校ブロックの取組状況報告】

(会長)

ありがとうございます。黄檗学園は視察等はなかったのですが、皆さんからどうでしょうか？

(委員)

黄檗学園は地元の学校でありますし、学校運営協議会の立場で何度か参観をさせても

らっています。学力向上という大きな課題に向けて、先生方が多岐にわたる指導をしてくださっており、今もラーニングコーディネーターの先生から報告がありましたが、少人数の学級を設定するなど僕らが通っていた頃とは全然違います。これは全市に導入されているのでしょけれどタブレットを大いに活用しながら学習を進めていくとか。そのためか、離席する子がいなくなっています。以前は（離席する児童が）あったのですが、今はみんな先生の方を向いて勉強できているので安心して見ていられ、よかったなと思えます。小倉小学校に視察に伺って、こみねっとの授業を見させていただきましたが、それも含めて、先生方が、手を変え品を変え、学力の向上に向けて取り組んでこられた、また取り組んでいる様子を見ました。間違いなく、成果に結びつくものと考えます。もし、成果に出ないなら、別の要因があるだろうと思います。引き続き、様々な形で学力向上に取り組んでいただきたいと思います。

(会長)

授業改善にかかわって、GIGAの前倒しが行われ、そのあたりで先生方大変になっているのではと思います。その中で「何のために使うのか」「何が効果的なのか」、わかりにくいですが「効果的な活用」をいわれています。そのあたりのところいかがでしょうか。研修会の設定の困難さとか、みんなが集まって研修することもなかなか見いだせないところとか、ご苦労とか課題とか？

(委員)

教育委員会からも発表の機会とかをいただいて、校内の中で、本校の課題であれば情報担当の分掌上での位置づけはまだまだ低いなあと思います。今までなら中学校教育研究会の部分をもつだけだったのが、いよいよテストもCBT化に変わってくる中で、教務主任から多くのことをお知らせしているのですが、実際に進めていくと各学年にPCというかICTというか、長けた先生が居るか居らないかで全然違う。居る学年や学校ではスムーズにいったらと感ずるので、校務上の位置づけ、分掌とかを見直していかないといけないと思っています。比較的本校では活用してもらっているのですが、現状としては、使うことが目的化されており、何のために使うのか、如何に効果的な活用をするかが課題となっており、私から発信、発信の毎日です。

他校の様子を聞いても、まだまだ、教員の腰は重いです。

(会長)

チャレンジする時代ですね。それでは先生からいかがでしょうか。

(黄檗中学校ブロックラーニングコーディネーター)

教職員が使えないと児童が使えるようにならないので、結構、ICT研修会をもっています。授業の中で使うとなると、学年で共通に使用することも多く、自然とお互いで自主研修しています。子どもたちでは、特に書くことが苦手な子どもたちには効果が上がっていると思います。担任は、使ってみて感じる場所があるようです。

(会長)

漢字変換などをどんどんやってくれるので、逆に手書きが汚くなるか、上達しないなども課題になるのでしょうか。現行のカリキュラムに変わって、早く切り替えるのがあるのかどうか、難しいものだなと思いますね。書写という学習もあり、偏と傍のバランスを考えるなど、すぐにはなくなるものではないでしょうし、そんなこともあり、現場では試行錯誤で取り組んでもらっているんだろうなと思います。教育委員会に対して必要な支援してほしいこととか、この辺が困っているとかはないですか？

(委員)

ICT支援員は非常に助かっています。できるなら毎週、毎日来てほしい。我々も生徒たちも慣れれば慣れるほど必要になっています。学校に居るか居ないかでは全然違います。今はもう、ICT支援員が居ないのは考えられない。

(黄檗中学校ブロックラーニングコーディネーター)

CBT時の機械の不具合とかが出た場合、日程に合わせてICT支援員に来ていただいたのは、大変助かりました。

(会長)

もう何年になるかな。学校事務については、学校教育法の改正があって、38条改正で授業ではなく、校務を支援する人が学校に入って教育を進める、いわゆるチーム学校論ですね。授業で勝負する人と事務・校務で勝負する人とが、協働して教育を進めていくことになっています。人資源を効果的に学校に入れていければいいですね。

ありがとうございます。続いて、宇治中学校ブロックのラーニングコーディネーターからお願いします。

(報告者 宇治中学校ブロックラーニングコーディネーター)

【宇治中学校ブロックの取組状況報告】

(会長)

ありがとうございました。委員のみなさん、宇治中ブロックに何かありますか？

今の報告について、私から一ついいですか。研究仮説ですが、仮説というのは自然科学の用語で、条件を変えることで結果を予想する場合に使うのですが、授業改善にはふさわしくない用語ではないでしょうか。子どもを操作することになり、また子どもが予想通りの動きを常にするものでもないもので、ちょっと考え直された方がいいのではないのでしょうか。

続いて、お待たせしました。東宇治中学校ブロックのラーニングコーディネーターからお願いします。

(報告者 東宇治中学校ブロックラーニングコーディネーター)

【東宇治中学校ブロックの取組状況報告】

(会長)

ありがとうございました。それでは委員の皆さん、東宇治中ブロックの取組に何かありますか？

(委員)

私も、地域のボランティアとして、5・6年生を対象に木工教室を開催しています。

子どもたちは、SDGsも学んでいるので、地域の企業の方から分けてもらった木材を利用して木材加工に取り組んでいます。子どもたちをじっと見ていると、最初は一人では扱いに困ったりしているんですよ。しばらくすると、別の子どもたちが手伝いに行くようになり、いつからか自分達で考えを出し合って、動き出すんですね。

学校の先生方は、「ゆっくり考えたらいいよ」とは言えない、時間の制限のあるので子どもたちが試行錯誤する時間の確保が困難なんだとは思いますが。

そういうところを、違う大人がやれば子どもたちにとって大きな学びになると思うのですが、そういうことでよろしいでしょうか。

違いますかね。

(東宇治中学校ブロックラーニングコーディネーター)

よく似たことを幼小連携で紹介してもらいました。

20人の幼児に15セットのおもちゃを与えたところ、20人の幼児が意図的に15セットでの遊び方を開発し協働していくと聞きました。

(会長)

非認知能力とは、聞き方によっては不思議な言葉で、文字通り「認知に非ず」ということです。

「非〇〇というのは、〇〇を説明するよりも〇〇ではないと否定する意味合い」が強く、一歩間違えたと何でもありになってしまいます。コンピテンシーという単語がありますが、それとどう違うのかなとか、本は読めるけれどどうなのかなとか、そもそも成績の話なのかな、限定してというかな、非で広げていくってというのは大変のかなと感じます。これは、個人的な意見ですが、アンケートをとられたということですが、先生方が子どもたちを見ていて「これは課題やな」とかあるならば、そこにきつとヒントみたいなことがあると思います。もし学校生活を一緒にして、観察というかご覧になって、課題が見えればそれで別にいいのではないかな。「聞かないと分からない」とは不思議なことで、テス

トとも関連するけれども、普段一緒に生活していて「何でこんなところで問題が起きるんだろう」とか、感じないなら、アンケート結果がわからないとか、どうだとか、別に問題ないんですよ。だって聞いて初めて出てくる問題なんだから、別にいいんです。ということも、両面見ながらやっていただいたらと思います。ありがとうございます。

それでは、時間を使いましたが、南宇治中ブロックにも視察でお伺いしました。南宇治中ブロックでは、9月13日に視察に行きました。中国にルーツをもつ児童が多い平盛小学校と西大久保小学校は南宇治中学校で一緒になるので、事前にお互いのことを理解しようとする小小連携、また南宇治中学校の中国文化拳術部の演武や小学校での竜舞を紹介する小中連携を見せていただきました。

事務局より本日欠席されている委員からの感想もご紹介ください。

(事務局より欠席の委員の感想)

中国にルーツをもつ子どもの理解が進み、小学生、中学生にかかわらず、地域に暮らす子どもたちにとって、大変意義深い授業でした。

また、「その後の南宇治中学校独自の中国文化拳術部の演武を見ることで活動内容を知ることは地域を知ることになり、小中一貫教育ならではの授業だったと思います。小学生にとってはあこがれであったり、身近な目標になったりしていると感じた。

(会長)

ありがとうございます。あと、北宇治中ブロックの視察に参加された委員からの報告もありましたが、本日欠席されている委員からの感想もご紹介ください。

(事務局より欠席の委員の感想)

3年生が集中して取り組んでいた。全部で4時間、こみねっにご指導いただき、コミュニケーション力のアップにつながっているのではないかと感じた。

(会長)

ありがとうございます。伺ったのは3ブロックで寂しかったですが、それぞれに共通のテーマもありましたし、また、コロナ禍の中、先生方の工夫によって取り組んでくださりありがたい限りでした。同時に、教育委員会のサポート等の支援がまだまだ必要だろうし、先生方も忙しいのでなかなか見直しも難しいかなあとと思いますが、校内研究のあり方とか、先生方の働き方ですねえ、どのように分業していくのかなど、課題もあると思います。より効果的な方法で進めていただければと思います。ありがとうございました。

(2) 報告2 令和4年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について

資料1の18頁に沿って事務局より説明

報告2についての質問・意見等と応答

(会長)

それでは続いて、本日の報告2は、「令和4年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について」です。事務局より報告していただきます。

(事務局)

令和4年度の宇治市小中一貫教育推進協議会の活動につきまして、ご報告申し上げます。

【事務局より令和4年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について報告】

(会長)

ありがとうございました。たくさん視察に来られて、黄檗学園は大変でしたね。

黄檗中学校ブロックラーニングコーディネーターから何か、感想などありませんか。

(黄檗中学校ブロックラーニングコーディネーター)

台湾の方には、全般の説明と、7年生でも防災教育やっておりますので内容を報告しました。あとは校舎を巡回してもらいました。加東市は初めて取り組むので、どんなことを取り組んでいるのかを、滋賀県甲賀市は、これからどうしようかということでした。

(会長)

ありがとうございました。

(3) 報告3 令和5年度に向けて 今後に向けた方向性について

資料1の19頁に沿って事務局より説明

報告3についての質問・意見等と応答

(会長)

つづきまして、報告の3「令和5年度に向けて」です。

まず、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、「令和5年度に向けて 今後に向けた方向性」について、資に基づき、ご説明申し上げます。

【事務局より 令和5年度に向けて 今後に向けた方向性について説明】

(会長)

ありがとうございました。

ただいま、事務局より「令和5年度に向けて」の説明がありました。

ここまでのお話を踏まえて、委員の皆様から本市の小中一貫教育全般について、ご意見を伺いたいと思います。また、提案に対するご意見も伺えればと思います。委員の皆様には「令和5年度、または、今後の発展に向けての期待や要望」等、今後の宇治市小中一貫教育について、ご提言いただければと思います。

10年が経って、小中の垣根も下がって、情報共有がしやすい環境というのは醸成されてきたと思います。そうだとするならば、これから問われるべきは、4つの柱とそれぞれについて、確かにそうだけれど、こういった点で難しいとか、こういった点で保護者や地域の支援があればとか、ピンポイントというか、具体的に、1から4でこのあたりは難しいなとか、ここはそう簡単に行くのは難しいとか、また、委員の先生方で、学校でご覧になって感じる事とか、学校の中にいらして、このあたりが難しい、逆にここは可能性があるとか、そのあたりはいかがでしょうか。例えば3とか、教職員の連携と協働はどこから来る難しさなのか、出てきた課題に取り組みましようと、一直線に進んでも実際難しいところがありますね。その難しさが、教員に由来することなのか、それとも学校をまたぐというか、そういった難しさから来ることなのか、繰り返しますが、教育委員会からの支援が必要なのか、4にも関係しますが、保護者との関わりなのか。全部をやっていきましようというより、ひとつ、ここに重点を置いてというのが現実的なので、学校の中から外からご覧になって、ここは応援出来るとか、ここ難しいとか、そのあたりは、どうでしょうか。

(委員)

現在ラーニングコーディネーターをしているのですが、この立場になって感じるのは、中学校の先生は、小学校から進学してくるので、こうして、ああしてと言いやすいだけれど、小学校の先生が、進学した先の中学校を見ることが本当に難しいと感じました。以前のブロックでは小学校の先生がラーニングコーディネーターをして各校を回ってくれていたのですが、中学校の先生の方がやりやすいのになと思っていました。また、コーディネーターは教務主任が多いので、教育課程を組むときに、日程を調整するのですが、小学校の行事が多く、隙間がないので、意外と気を遣うところでした。お互いに気を遣いながらやるといったところが、小・中学校の間には、まだまだあると感じています。

(委員)

管理職になって、小中ともに経験しました。学力には直接関係はないかもしれませんが、小倉小学校で久々にこみねっつを見せてもらって、全員が授業に参加するってことが、まず、すばらしいなあと思いました。普通の授業なら、前を向いて座っていても参加しているようでしていないことがすごく多いと感じています。こみねっつの取組は、その学びに参加しようとする、学校の教育活動の中に少し「遊び」がはいった、正に非認知の学習をしています。第3観点がむずかしいとか、メタ認知をどう育てるかなど、これがまた至難の業です。特別活動で、小学校での行事がどういう位置づけか、見直し、調整しながら様々な疑問を解決していつているし、教科以外でそういった力を付けてきている。こういった子どもたちの力を小中の橋渡し、引き継いでいくのがラーニングコーディネーターの役割として、これから必要なことになるんだと思います。中学校の教師は、小学校の教科外で学んだことをしっかり引き継いでいかないといけない。行事以外に見える部分の一例として、タブレットの活用

があります。現中1は、それはもう操作は教えなくてもパワーポイントで発表させても本当に上手でした。これはもう小学校からの積み重ねの賜です。中学校サイドから見ると、小学校で習っているからできると思うのですが、では実際にどうやってこの力を身に付けたのかというイメージがない。だからこそ、小中がつながって、引き継いで学んでいく必要があると思っています。教科は、カリキュラムがあって、評価があって、年間計画があって、こんな風に習っているんだと分かるのですが、こういったものにはそういうものがないということで、小中一貫教育にとって大変大事なことはないかと思いました。

(会長)

小中一貫教育がそもそも小学校と中学校を繋げるというものだけでなく、育ちを「評価」だけではカバーできないような風呂敷というかおおらかに準備されている感じがします。教科の専門という土台だけに乗っかって、必ずしもそれで良いのか、そうじゃないからこそ気がつくこともあるし、ある意味面白い。学校そのものも、コロナを受けて、福祉的機能が期待されました。まだまだ、大きな可能性があるということだと思います。

(委員)

小中一貫教育が始まったころの会議のお話の内容は一つ一つの取組が模索されていたように思いますが、今はレベルが上がった印象があります。もちろん、コーディネーターの皆さんの努力、学校の先生方の努力があり、小学校にも中学校の先生に来ていただいているということがあります。が、小中一貫というのは、たぶん保護者は耳にはしているのですが、なかなか保護者に教員の努力が見えていない現状があります。私は、多くの関わりがあり、保護者の方より、ずっと学校に行っているのだから先生方から多くの説明をしてもらっているのだからわかるのですが、保護者・地域はとなると、そのあたりが課題ではないでしょうか。

(会長)

先生方をお願いと言うことではなくて、学校HPを活用してということはあるのかなと思います。CSもあり進んでいくと、学校HPも保護者や地域の方に作ってもらうというのも実際にあるので、もちろん教育課程については駄目ですが、紙で刷って配ってではなく、クラスにもHPを作ってもらって、欠席連絡も学級からのお知らせも全部データで、双方向のやりとりができる。学級単位のホームページを作成して業務がかなり減ったという声も聞きます。こういった活用もICT活用に繋がっていくんだと思います。その辺もスタッフの支援があれば良いと思います。

(委員)

地域の代表としてこの会に参加している立場から、特に4のテーマについて関心をもって見えています。CSと地域学校協働活動が令和4年度から始まりましたが、新しい言葉が地域に投げかけられ、その新しい言葉と今まで積み上げられてきた小中一貫教育との関連性が私たちには整理できない。いったい地域に何を期待されているのか、いや期待されてなくて知っておくだけのレベルなのか、私が、逆になまじっか関わっているからか、すごく混乱している状況です。今まで小中一貫教育として発信してきたレベルはもう終わって、新しいところにどんどん入ってきてくださいよという、内田委員のような方がどんどん増えていくことを望んでおられるのか、もう少し専門的な言葉を横に置いておいていただいて、地域の方たちに、わかりやすい方向付け、わかりやすい誘導をしていただけたら、ありがたいかなと思っています。どこへ誰に訴えればいいのかわかりませんが、新しい考え方に対してもそうすることが、小中一貫教育の充実に繋がっていくのではないのでしょうか。

(会長)

振興計画の作成にも議論があったのですが、業界用語はとても難しいので、全国的にお願いして、インデックス、用語の解説書の作成をお願いしています。会議をしても、その用語理解の部分で止まってしまうこともあり、ぜひ、関わる人たちに、それこそHPにアップしてもらうとか、用語の説明に繋がる頁にリンクするとか、もっと情報発信・情報提供が地域のみなさんに必要です。また委員会をお願いすることになりますが、CSでは、「先生が忙しいので分からないけど聞けない」という話もありましたので、用語の説明だけでなく積極的な情報発信をお願いします。

それでは、各委員から「宇治市の小中一貫教育への期待、要望等」をいただきましたので、事務局からの次年度の方向性に合わせて、今後の取組に是非とも活かしていただきたいと思います。

(4) 報告 令和4年度 小中一貫教育についてのアンケートについて

資料2「令和4年度小中一貫教育についてのアンケート報告書概要版」により事務局より報告
報告4について質問・意見等と応答

(会長)

それでは、続けてアンケート、協議事項4 その他報告事項として、事務局からお願いします。

(事務局)

それでは、事務局より、令和4年度小中一貫教育についてのアンケート結果概要についてご報告いたします。

【事務局より 令和4年度小中一貫教育についてのアンケート結果概要について報告】

(会長)

ありがとうございます。事務局から「小中一貫教育についてのアンケート結果」について報告がありました。じっくり見ていただくには、時間がありませんが、各委員から、ご質問やご意見などをいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

(5) 報告5 (仮称)西小倉地域小中一貫校について

別紙資料に沿って事務局(学校改革推進課)より説明

報告・協議6について質問・意見等と応答

(会長)

それでは、最後の報告になります。「西小倉地域における小中一貫校について」お願いいたします。

(事務局)

それでは、「(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本設計」につきまして、お手元の資料とスライドに基づきご説明申し上げます。

【事務局より (仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本設計」について説明】

(会長)

ありがとうございました。では、こんな感じで進んでいるということですのでよろしいでしょうかね。前半に時間をとりすぎ、後半は急ぎましたことをお詫びします。

それでは、これで第2回協議会を終了させていただきます。進行を事務局にお返しします。

(事務局)

事務連絡事項の説明

本日の議論につきましては、冒頭にお話した通り、要約という形【会議録】で作成します。

また、内容を整理した上で各委員のほうに確認していただきますのでよろしくお願いします。

会議が終了しましたので、事務局より北尾教育部長がご挨拶を申し上げます。

3 閉会

北尾部長より閉会の挨拶

(事務局)

本日は誠にありがとうございました。お気をつけてお帰りください。